

知立駅周辺エリアまち育てワークショップ 私からはじめるまち育て

レポート
vol.4



外部講師
元 名城大学社会連携センター
社会連携コーディネーター

宮原 知沙氏



話題提供

私からはじめる 若者・学生

知立駅周辺エリアは大規模なインフラ整備により、まちが大きく生まれ変わりつつあります。新しい知立駅とその周辺地区をどんなまちにしていきたいか、まちのあり方を考え、アクションにつなげるための議論を昨年度から進めています。今年はより議論を掘り下げるため、主要なテーマにまつわる話題提供とディスカッションを通して、未来の駅周辺を想像し、いまの私たちにできることを考えていきます。

第4回は令和5年11月6日(月)に「若者・学生」をテーマに計21名で議論を行いました。テーマの当事者である高校生や大学生に加えて若者らの活動を支援したいという思いを持つ地域や組織の参加者らが集まりました。

若者・学生 次世代の居場所や活躍を育む地域づくり

今回のワークショップの外部講師は、元名城大学社会連携センター社会連携アドバイザーの宮原さん。地域活性化やまちづくりには、若者の参画が必要であるという認識を多くの地域が持ちながらも「何から始めたらいよいよわからない」という声も多く聞かれます。宮原さんの話題提供ではそんな疑問に答えるように、名城大学社会連携センターでの経験と、現在進行中のプログラムでの実践の2つの側面から、地域と学生の連携支援のあり方についてお話しいただきました。

宮原さんは、学生時代にまちづくりに関わった経験から、卒業後はまちづくり系のシンクタンク・コンサルティング会社に就職され、地方創生や過疎地域の活性化を目的とした地域と大学生との連携等を支援されてきました。しかし、実際に出会った若者と自身の持っていたイメージにギャップを感じ、自身の成長や自己実現を叶える支援の必要性を感じていたそうです。そんな中、名城大学社会連携センターのコーディネーターに就任され、実践的な学びの機会を通じた学生の成長の助けをされてきました。

名城大学社会連携センターの目指すビジョンは、専門性を活かした共創による社会連携を生み出す「地域の価値創造の会議室」というものです。そして、実際の社会連携センターの業務としては、行政や企業等からの依頼に対して、大学の専門性や性質を踏まえ、実際のプロジェクトやプログラムを通じて学生や教職員との連携を支援するというものでした。そして大学と地域の関わり方は、主に4つに分類されるといいます。

①授業・ゼミ・専門性を活かす取り組みや実施目的が明確な場面に向いているが、研究テーマ等との相性が肝要。②サークル・学生生活・学生の活躍として活動内容が明確な場面に向いているが、学生の興味・関心との相性が肝要。③社会連携センター・自主的なテーマや企画の設定により、幅広い学生の募集が可能。④個人・公募・幅広い学生の募集が可能。学生のマネジメントへの関与が大きい。

いずれも教育研究の場として、学生の「やりたい」を引き出すような対話やマッチングを行い、多様な可能性の扉を用意することを大切にされていました。特に「地域は課題がある場所ではなく、魅力がある場所」という言葉が印象的でした。

次に、宮原さんの現在関わる奈良県でのプロジェクト「ヤマロボ」について、お話をうかがいました。ヤマロボは、大学と地域をつなぐ関係人口創出プログラムであり、奈良県山添村をフィールドに、地域のリアルを知り、地域の人と出会い、学生が自分のやりたいことを探り、チャレンジするプログラムです。参加した学生は公募で集まった学年も学部も、参加の動機も様々ですが、実践的な経験を積みたい、地域活性化のための企画をやってみたいなど熱い想いを持って参加されていました。

このプログラムを通じて地域と学生の連携支援のポイントを宮原さんはこう語ります。「1つ目のポイントは『誰(誰)か』(こと・意思)・(can)できること・(need)求められること」という考え方を大切にすること。それは誰かに言われてやるプロジェクトではなく、自分自身のやりたい事と地域との出会いで感じ取った思いを、自ら企画し、実行することです。2つ目に、関わりしるのグラデーションを豊かにすること。学生の興味関心やスキルによって、参画の度合いや方法も変わってきます。そのためには対話を通じて信頼関係を築くことが重要です。3つ目は非日常から日常への転換。プログラムのフィールドは非日常な空間ですが、地域の人の対話や交流の中で自分自身にしか得られない経験をすることで、パブリックなものからプライベートなものに変化する過程こそが重要だと考えています。」

まとめとして「地域は自分の可能性と出会い、共に成長する場である」と話されていたのが印象的でした。さらに、若者に対して丁寧にニールに接するというお話の中で出てきた「期待を押し付けられるのではなく、信頼すること」という言葉にも、ハッとさせられました。

地域講師
山本学園生徒会
鈴木氏・成田氏



これまでの地域活動と今後の目標

地域講師の1人目の登壇者は、山本学園生徒会の鈴木さんと成田さん。生徒会活動を通じてボランティア活動やイベントへの参画など日頃から幅広く活動されており、それらを通じて感じた思いや得られた経験について紹介してくれました。

1つ目は、普段から学生たちが使っている駅周辺や通学路、公園などのクリーン活動について、大妻大が充実感を持って楽しくやっている様子を話してくれました。2つ目は、2001年から継続して行われている福祉施設へのクリスマスケーキの配布活動。施設の方が喜んでくれることにやりがいを感じたというエピソードは心温まるものでした。3つ目は、8月に行われたよいとこ祭りのeスポーツブースを知立高校の学生と一緒に運営し、交流を持ったことなどを話してくれました。

また今後の活動の抱負として、クリーン活動やイベント参加などを通じて、学校の垣根を越えて学生同士の連携やコミュニケーションを深め、どんなまちにしていきたいかを考えるきっかけを増やしたいという

前向きな意見が挙げられました。駅周辺への期待としては、学生が集まりやすいように、ベンチがある休憩スペースや、過ごしやすい環境があったり、キッチンカーの出店など、学生でも近寄りやすい憩いの場づくりを求めています。

地域講師
愛知教育大学
山田氏



まちづくりと私

2人目の登壇者は、愛知教育大学の山田さん。知立東高校在学中にまちづくりに興味を持ち、これまでも様々な活動にチャレンジされています。

そんな山田さんがまちづくりに興味を持ったのは、高校時代の夏休みの宿題で「知立市の課題と解決策」の提案に取り組んだことがきっかけです。自分の通うまちにある課題に気付き、それに対して自分ができるかを考える中で、一過性の賑わいづくりではなく、住みやすさや若者世代が輝ける未来を見据えたまちづくりが必要だということに気付いたそうです。

そして、その後の活動の中で、特に印象に残っているものを3つ紹介してくれました。

1つ目は学生と市職員が政策討論する「知立の未来を考えるシンポジウム」。多文化共生や外国籍児童の学習支援をテーマとした山田さんの提案に対し、市職員から実現可能性について厳しい指摘もあったそうですが、本気で向き合っただけ意見がもたらえたことが嬉しかったといっています。2つ目は「SDGsアイデアコンテスト」。シンポジウムの経験や学びを活かしてSDGsをテーマとした提案を行い、実際に高校でアンケート調査を実施し、ニーズ等を反映する工夫もされたそうです。3つ目は活動の集大成となった「知立市SDGsシンポジウム」。知立市長や有識者とのパネルディスカッションで自分の意見を伝えられたこと、多様な視点からの考えに触れたことは非常に大きな経験になったと話してくれました。

「これまで様々な世代や立場の人と関わりながら、まちづくりに人間性を育ててもらった。高校時代はとことん自分や地域と向き合い考え抜いたので、これからは実践することに挑戦していきたい」という山田さんの力強い言葉が心に残りました。

話し合いの成果

参加者は班ごとに分かれ、知立駅周辺の「若者・学生〇〇カ条」を話し合い、まとめた意見を発表しました。

- A班** ①気軽に寄れる駅近のいこいの場 ②なじみやすい名称の相談センター
③学生から学生への拡散
- B班** ①雰囲気づくり！！ ②学生が安心できる場
- C班** ①自分でつかめ？情報と挑戦 ②居場所はココだ！
③私の思う魅力を伝え合おう！

- D班** ①地域・企業・学生をマッチングする ②当たり前に寄れる場所にする
③芝生広場を活用する ④非日常を楽しめる空間
- E班** ①ネットから対面へ（対面でも参加したいと思えるメリットが必要）
②カフェなどの駅前に集える場所を
③若者が遊べる場を！！知立は待ち合わせの場所

Pick up!
みんなの
共通意見

情報

人から人へ
対面のつながりも大事に

互いに、対等に、
信頼関係を築いていく

場

学生が安心できる
日常・非日常を楽しめる
当たり前に寄ることができる
電車の待ち時間を過ごせる

地域・企業・学生
若者と大人が出会う

マッチング

チャレンジできる知立に
やりたい気持ちを応援！

興味関心や挑戦を
公共空間にはみ出していく！

終了後のアンケート紹介

- ・学生からの視点に加えて、大人から見た学生・若者のイメージも聞けて楽しかったです。それぞれの見え方の違いも面白かった。
- ・他校の学生との交流もできてよかったです。自分も何かしたいなと思いつつ、何から始めればよいか悩んでいたんで、できることから挑戦したいです。

発行日：2023年11月30日

発行：知立市市民部 経済課 商工観光係

TEL) 0566-95-0125 (直通)

Mail) keizai@city.chiryu.lg.jp

協力：大日本ダイヤコンサルタント株式会社、NPO 法人まちの縁側育くみ隊